ハイチ震災

# コレラ「長期的対策を」

## 政情不安、復興遅れ

現地入りしたAMDA代表

コレラ感染が拡大するハイチに今月初め入った国際医療救援団体「AMDA」（本部・岡山市）の菅波茂代表が、毎日新聞の取材に国際電話で現地の様子を語った。1月の大地震からの復興が遅れ、11月末の大統領選の影響でデモも頻発。「コレラ感染が止まる気配はなく、長期的対策が必要だ」と訴えた。

菅波代表らは1日に日本を出発。10日現在、医師2人、看護師1人で活動している。菅波代表によると、10月に始まったコレラ感染はハイチ全土に広がり、死者は2000人を超え、なおも感染拡大が懸念される。AMDAは現地の医療団体と協力し、医者が足りない南西部のフォンデネグ市の病院で治療にあたっている。

「コレラの知識を持った人材が不足している」と言い、病院でもコレラ患者11人が他の患者と同じ病棟に収容され、必要な隔離措置がとられていなかった。住民が使っているのは浅い井戸で、感染防止のための清潔な水の確保や衛生環境の整備は遅れているという。

政情不安も深刻で「大統領選の影響もあり、大規模な抗議デモがあちこちで起きている」。隣村からコレラによる死者情報が届いた時は倒されたコンテナ車で道路が封鎖され、たどり着けなかった。

菅波代表は「すぐにハイチの現状が好転する要素は少なく、長期的視野でコレラ対策を考えないといけない」と訴えた。【石戸諭】

医療品を運び込む菅波代表（左）ら＝ハイチ南西部のフォンデネグ市で（AMDA提供）